

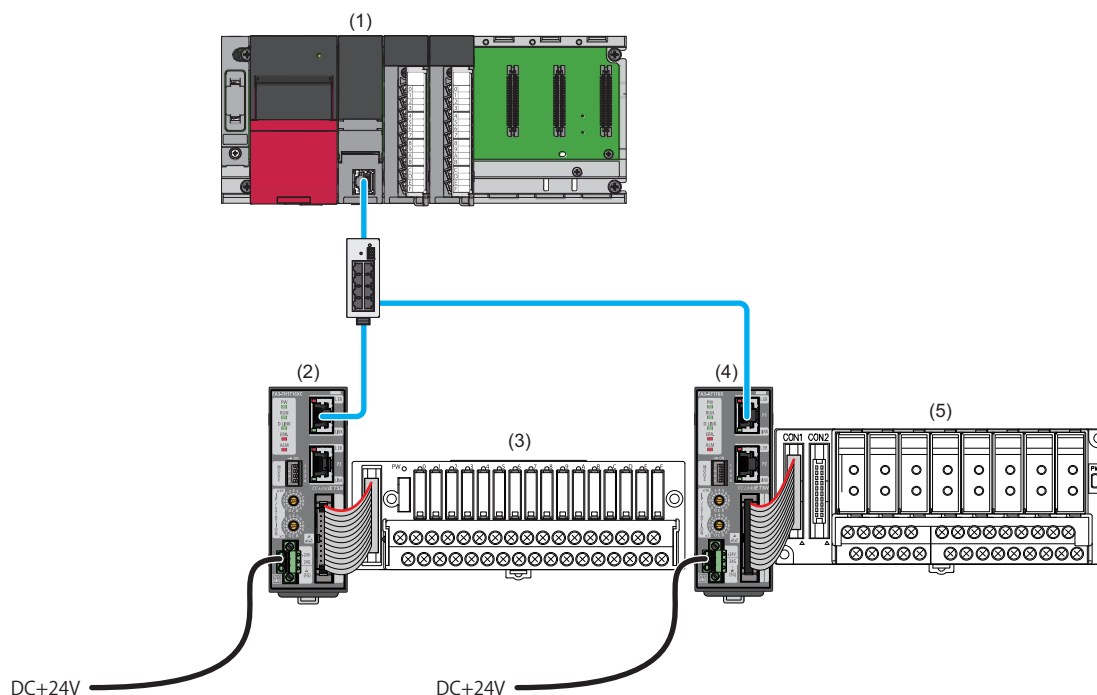
# 8 CC-Link IEフィールドネットワークBasicによる通信

CC-Link IEフィールドネットワークBasicは、汎用Ethernetを活用したFAネットワークです。リモート入出力信号、リモートレジスタを使用して、マスタ局とスレーブ局間で定期的(サイクリック伝送)にデータ通信します。

CC-Link IEフィールドネットワークBasicの詳細については、下記を参照してください。

📖 CC-Link IEフィールドネットワークBasicリファレンスマニュアル

## 8.1 CC-Link IEフィールドネットワークBasicの構成



- (1) マスタ局
- (2), (4) スレーブ局(ネットワークインタフェースユニット)
- (3), (5) 変換器(📖 17ページ 接続可能機器)

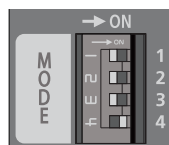
CC-Link IEフィールドネットワークBasicのシステム構成については、下記を参照してください。

📖 CC-Link IEフィールドネットワークBasicリファレンスマニュアル

### 注意事項

#### ■ネットワーク設定スイッチ

下記の設定になっているか確認してください。(📖 75ページ ネットワークモードの設定)



- スイッチ1: OFF
- スイッチ2: OFF
- スイッチ3: OFF
- スイッチ4: ON

#### ■配線

EthernetケーブルがP1に接続されているか確認してください。(P2は使用できません)

## 8.2 機能

---

本節では、CC-Link IEフィールドネットワークBasicでのみ使用できる機能の詳細を示します。

CC-Link IEフィールドネットワークBasicで使用するネットワークインタフェースユニットの共通機能は、下記を参照してください。

📖 90ページ 機能一覧

### SLMP通信機能

---

CC-Link IEフィールドネットワークBasicでは、SLMPプロトコルが混在したネットワークを構築できます。

SLMPコマンドなどは、下記を参照してください。

📖 236ページ 伝文フォーマット

#### Point

CPUユニットからネットワークインタフェースユニットにSLMPコマンドを送信する場合、SP.SLMPSND命令を使用します。SP.SLMPSND命令については、各シリーズのマニュアルを参照してください。

---

## 8.3 パラメータ設定

マスタ局に接続したエンジニアリングツールで、ネットワークインタフェースユニットのパラメータを設定します。  
使用するネットワークインタフェースユニットの形名ごとにプロファイルが必要です。(16ページ 対応プロファイル)

### ネットワーク構成設定

マスタ局のエンジニアリングツールから、ネットワークインタフェースユニットのパラメータを直接ネットワークインタフェースユニットへ書き込みます。(不揮発性メモリに保存されます)

ネットワーク構成設定については、下記を参照してください。

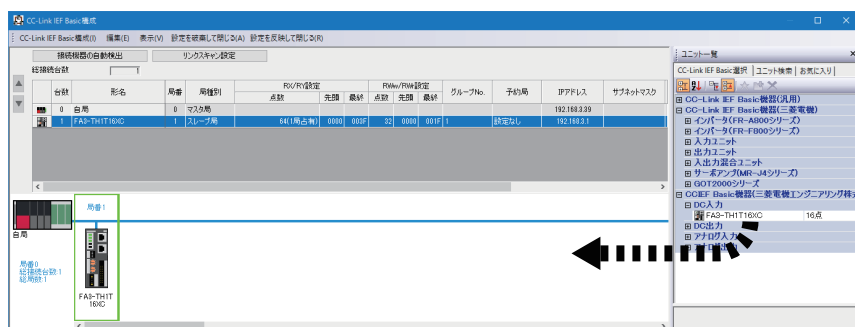
CC-Link IEフィールドネットワークBasicリファレンスマニュアル

#### 操作手順

1. マスタ局のエンジニアリングツールで“CC-Link IEF Basic構成”画面を表示します。

[ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]⇒[ネットワーク構成設定]の<詳細設定>をダブルクリック

2. “ユニット一覧”からネットワークインタフェースユニットを選択し、局一覧またはネットワーク構成図にドラッグ&ドロップします。



3. 追加したネットワークインタフェースユニットにIPアドレスとサブネットマスクを設定してください。

ネットワークインタフェースユニットの設定項目		設定内容
IPアドレス	第1オクテット～第3オクテット	マスタ局のIPアドレスの第1オクテット～第3オクテットと同じ値
	第4オクテット	ネットワークインタフェースユニットのIPアドレス/局番設定スイッチの値と同じ値 (76ページ IPアドレスの設定)
サブネットマスク		255.255.255.0 <sup>*1</sup>

\*1 IPアドレスの第1オクテット～第3オクテットの自動設定時、サブネットマスクは、255.255.255.0固定です。サブネットマスクを255.255.255.0以外で使用したい場合は、IPアドレスとサブネットマスクを設定してください。(206ページ 任意のIPアドレスとサブネットマスクの設定)

4. パラメータ設定を行うネットワークインタフェースユニットを選択し、“スレーブ局のパラメータ処理”画面を表示します。

ネットワークインタフェースユニットを右クリック⇒[オンライン]⇒[スレーブ局のパラメータ処理]


5. “スレーブ局のパラメータ処理”画面で“実行する処理”を“パラメータ書込”に設定し、パラメータを設定します。  
(200ページ “スレーブ局のパラメータ処理”画面)

パラメータの設定値をCSVファイルに保存する場合は、[エクスポート]ボタンをクリックします。

パラメータの設定値をCSVファイルから読み出す場合は、[インポート]ボタンをクリックします。


6. [実行]ボタンをクリックし、ネットワークインタフェースユニットにパラメータを書き込みます。
7. [閉じる]を選択し、“スレーブ局のパラメータ処理”画面を閉じます。
8. [設定を反映して閉じる]をクリックし、“CC-Link IEF Basic構成”画面を閉じます。

9. "CC-Link IEF Basic構成"画面で設定したIPアドレスとサブネットマスクをマスタ局のCPUユニットに書き込み、CPUユニットをリセットまたは電源OFF→ONします。


 [オンライン]⇒[シーケンサへの書き込み]

#### Point

- FA3-TH: 上記の操作手順の直後にパラメータが有効になります。
- FA3-AT: 上記の操作手順のあと、イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ONすることでパラメータが有効になります。

また、リモートバッファメモリの内容は、不揮発性メモリに自動保存される項目と、イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFしたタイミングで不揮発性メモリに保存される項目があります。(  53ページ 不揮発性メモリへの保存)

#### 注意事項

不正なパラメータでも、不揮発性メモリに保存されます。その状態で電源OFF→ONまたはリセットすると、不揮発性メモリから不正なパラメータが読み出され、エラーが発生します。その場合はエラーコードを確認し、該当する処置方法に従って対応してください。(  295ページ エラー / アラームの確認方法)

# “スレーブ局のパラメータ処理”画面

ネットワークインタフェースユニットのパラメータを設定する“スレーブ局のパラメータ処理”画面の詳細を示します。

例

FA3-TH1T16XCの“スレーブ局のパラメータ処理”画面

スレーブ局のパラメータ処理

対象機器情報

FA3-TH1T16XC  
局番1

実行する処理(M):

パラメータ書込

対象の機器に対してパラメータの書込みを行います。

パラメータ情報

チェックしたパラメータが選択された処理の対象になります。

全選択(A)

全解除(L)

名称	初期値	単位	読出値	単位	書込値	単位	設定範囲	説明
<input checked="" type="checkbox"/> 入力応答時間設定	1	ms		ms		ms		実入力がX信号として応答するまでの時間を設定すること。
<input checked="" type="checkbox"/> リレーON回数閾値設定								メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の有効/無効を設定します。
X0リレーON回数閾値有効無効	無効							メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の有効/無効を設定します。
X0リレーON回数閾値設定	0	回	回	回	回	回	0～4294967295	メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の閾値を設定します。
X1リレーON回数閾値有効無効	無効							メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の有効/無効を設定します。
X1リレーON回数閾値設定	0	回	回	回	回	回	0～4294967295	メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の閾値を設定します。
X2リレーON回数閾値有効無効	無効							メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の有効/無効を設定します。
X2リレーON回数閾値設定	0	回	回	回	回	回	0～4294967295	メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の閾値を設定します。
X3リレーON回数閾値有効無効	無効							メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の有効/無効を設定します。
X3リレーON回数閾値設定	0	回	回	回	回	回	0～4294967295	メンテナンスアラーム機能のリレーON回数の閾値を設定します。

「読出値」を全クリア(R)

「書込値」を全クリア(C)

処理オプション

選択した処理にはオプションはありません。

・「対象機器情報」の機器に対して処理を行います。  
・「現在の接続先」を使用して、機器へアクセスします。接続先に問題がないか確認してください。  
・画面上に内容が表示されていない項目に関する情報は、機器のマニュアルを参照してください。

実行(O)

インポート(O)

エクスポート(E)

閉じる

## FA3-TH1T16XC, FA3-TH1M16XC

項目		説明	設定範囲	参照
入力応答時間設定		実入力信号がX信号として応答するまでの時間を設定することで、ノイズによる誤入力を防ぎます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>0ms</li> <li>0.2ms</li> <li>1ms(デフォルト)</li> <li>1.5ms</li> <li>5ms</li> <li>10ms</li> <li>20ms</li> <li>70ms</li> </ul>	109ページ 入力応答時間設定機能
リレー ON回数閾値設定	Xリレー ON回数閾値有効/無効設定	メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の有効/無効を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効(デフォルト)</li> <li>有効</li> </ul>	105ページ リレー ON回数閾値(FA3-TH)
	Xリレー ON回数閾値設定	メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の閾値を設定します。この閾値は、リレー ON回数閾値有効/無効設定が有効のときにカウント値と比較します。	0~4294967295 (デフォルト: 0)	
稼働経過時間閾値設定		メンテナンスアラーム機能の稼働経過時間の閾値を設定します。ただし、この値が0のときは、稼働時間経過アラームは発生しません。	0~4294967295 (デフォルト: 0)	105ページ 稼働経過時間閾値

### Point

CC-Link IEフィールドネットワークBasicはスレーブ局のコマンド実行に対応していないため、リモートバッファメモリに対してエンジニアリングツールからの読出し/書込みができません。

下記へのアクセスには、SP.SLMPSND命令を使用してください。(197ページ SLMP通信機能)

- 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H, 0001H)
- 56ページ Xリレー ON回数(3B60H~3B61H, ..., 3B7EH~3B7FH)
- 56ページ 稼働経過時間(3B80H, 3B81H)
- 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)
- 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)
- 57ページ リレー ON回数リセットフラグ(4121H)
- 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)
- 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)

エラーのクリアには、エラークリア要求フラグ(RWw0.b10)をOFF→ON→OFFします。(41ページ ユニット操作エリア(RWw0))

エラー履歴のクリアはできません。

## FA3-TH1T16Y, FA3-TH1T16YE, FA3-TH1M16Y, FA3-TH1M16YE

項目	説明	設定範囲	参照
出力HOLD/CLEAR設定	データリンクから解列したとき、またはCPUユニットの動作状態がSTOP時、RESET時、エラー停止時に、直前まで出力されていた値を保持(HOLD)するか、クリア(CLEAR)するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CLEAR(デフォルト)</li> <li>• HOLD</li> </ul>	☞ 110ページ 出力HOLD/CLEAR設定機能
リレー ON回数閾値設定	Y□ リレー ON回数閾値有効無効設定	メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の有効/無効を設定します。	☞ 105ページ リレーON回数閾値(FA3-TH)
	Y□ リレー ON回数閾値設定	メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の閾値を設定します。この閾値は、リレー ON回数閾値有効/無効設定が有効のときにカウント値と比較します。	
稼働経過時間閾値設定	メンテナンスアラーム機能の稼働経過時間の閾値を設定します。ただし、この値が0のときは、稼働時間経過アラームは発生しません。	0~4294967295 (デフォルト: 0)	☞ 105ページ 稼働経過時間閾値

### Point

CC-Link IEフィールドネットワークBasicはスレーブ局のコマンド実行に対応していないため、リモートバッファメモリに対してエンジニアリングツールからの読出し/書込みができません。

下記へのアクセスには、SP.SLMPSND命令を使用してください。(☞ 197ページ SLMP通信機能)

- ☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H, 0001H)
- ☞ 59ページ Y□ リレー ON回数(3B60H~3B61H, ..., 3B7EH~3B7FH)
- ☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H, 3B81H)
- ☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)
- ☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)
- ☞ 57ページ リレー ON回数リセットフラグ(4121H)
- ☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)
- ☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)

エラーのクリアには、エラークリア要求フラグ(RWw0.b10)をOFF→ON→OFFします。(☞ 41ページ ユニット操作エリア(RWw0))

エラー履歴のクリアはできません。

## FA3-AT1T8X, FA3-AT1M8X

項目		説明	設定範囲	参照
A/D変換許可/禁止設定	CH0 A/D変換許可/禁止設定	チャンネルごとに、A/D変換を許可するか、禁止するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可(デフォルト)</li> <li>禁止</li> </ul>	☞ 114ページ A/D変換許可/禁止機能
平均処理設定	CH0 平均処理指定	サンプリング処理または平均処理の選択をチャンネルごとに設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンプリング処理(デフォルト)</li> <li>時間平均</li> <li>回数平均</li> <li>移動平均</li> </ul>	☞ 114ページ A/D変換方式
	CH0 平均時間/平均回数/移動平均設定	平均処理指定したチャンネルごとの平均時間、平均回数、移動平均回数を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間平均: 2~10000ms</li> <li>回数平均: 4~65000回</li> <li>移動平均: 2~128回(デフォルト: 0)</li> </ul>	
入力信号異常検出機能	CH0 入力信号異常検出設定	チャンネルごとに、異常検出する条件("無効"/"入力信号異常検出")を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効(デフォルト)</li> <li>入力信号異常検出</li> </ul>	☞ 117ページ 入力信号異常検出機能
警報出力機能(プロセスアラーム)	CH0 警報出力設定	チャンネルごとに、プロセスアラームの警報出力を許可するか、禁止するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可</li> <li>禁止(デフォルト)</li> </ul>	☞ 119ページ 警報出力機能(プロセスアラーム)
	CH0 プロセスアラーム上上限値	プロセスアラーム上上限値/上下限値/下上限値/下下限値の4段階を設定します。	-32768~32767 (デフォルト: 0)	
	CH0 プロセスアラーム上下限値		-32768~32767 (デフォルト: 0)	
	CH0 プロセスアラーム下上限値		-32768~32767 (デフォルト: 0)	
	CH0 プロセスアラーム下下限値		-32768~32767 (デフォルト: 0)	
デジタルクリップ機能	CH0 デジタルクリップ有効/無効設定	チャンネルごとに、デジタルクリップを有効にするか無効にするかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効(デフォルト)</li> <li>有効</li> </ul>	☞ 121ページ デジタルクリップ機能
スケーリング機能	CH0 スケーリング有効/無効設定	チャンネルごとに、スケーリングを有効にするか無効にするかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効(デフォルト)</li> <li>有効</li> </ul>	☞ 122ページ スケーリング機能
	CH0 スケーリング上限値	チャンネルごとに、スケール換算する範囲を設定します。	-32000~32000 (デフォルト: 0)	
	CH0 スケーリング下限値		-32000~32000 (デフォルト: 0)	
ロギング周期設定	CH0 ロギング周期単位設定	ロギング周期設定の単位を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ms: 1~32767</li> <li>s: 1~3600</li> </ul>	☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT)
	CH0 ロギング周期設定	ロギング周期を設定します。	1~32767 (デフォルト: 1)	
ロギングデータ設定	CH0 ロギングデータ設定	デジタル出力値またはスケーリング値のどちらのデータを収集するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル出力値(デフォルト)</li> <li>スケーリング値</li> </ul>	
稼働経過時間閾値設定		メンテナンスアラーム機能の稼働経過時間の閾値を設定します。ただし、この値が0のときは、稼働時間経過アラームは発生しません。	0~4294967295 (デフォルト: 0)	☞ 105ページ 稼働経過時間閾値



CC-Link IEフィールドネットワークBasicはスレーブ局のコマンド実行に対応していないため、リモートバッファメモリに対してエンジニアリングツールからの読出し/書込みができません。

下記へのアクセスには、SP.SLMPSND命令を使用してください。( 197ページ SLMP通信機能)

- 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H, 0001H)
- 66ページ CH口 最大値・最小値(0600H~060FH)
- 56ページ 稼働経過時間(3B80H, 3B81H)
- 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)
- 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)
- 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)
- 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)
- 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)

エラーのクリアには、下記いずれかをOFF→ON→OFFします。

- 34ページ エラークリア要求フラグ(RYA)
- 34ページ イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)

エラー履歴のクリアはできません。

## FA3-AT1T8Y, FA3-AT1M8Y

項目		説明	設定範囲	参照
D/A変換許可/禁止設定	CH□ D/A変換許可/禁止設定	チャンネルごとに、D/A変換を許可するか、禁止するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可</li> <li>禁止(デフォルト)</li> </ul>	☞ 129ページ D/A変換許可/禁止機能
アナログ出力HOLD/CLEAR設定	CH□ アナログ出力HOLD/CLEAR設定	データリンクから解列したとき、またはCPUユニットの動作状態がSTOP時、RESET時、エラー停止時に、直前まで出力されていたアナログ値を保持(HOLD)するか、クリア(CLEAR)するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>CLEAR(デフォルト)</li> <li>HOLD</li> </ul>	☞ 130ページ アナログ出力HOLD/CLEAR設定機能
警報出力機能	CH□ 警報出力設定	チャンネルごとに、警報出力を許可するか、禁止するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可</li> <li>禁止(デフォルト)</li> </ul>	☞ 131ページ 警報出力機能
	CH□ 警報出力上限値	チャンネルごとに、警報出力するデジタル演算値の範囲を設定します。	-32768~32767 (デフォルト: 0)	
	CH□ 警報出力下限値		-32768~32767 (デフォルト: 0)	
スケーリング機能	CH□ スケーリング有効/無効設定	チャンネルごとに、スケーリングを有効にするか無効にするかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効(デフォルト)</li> <li>有効</li> </ul>	☞ 133ページ スケーリング機能
	CH□ スケーリング上限値	チャンネルごとに、スケール換算する範囲を設定します。	-32000~32000 (デフォルト: 0)	
	CH□ スケーリング下限値		-32000~32000 (デフォルト: 0)	
ロギングデータ設定	CH□ ロギングデータ設定	デジタル入力値/スケーリング値のどちらのデータを収集するかを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル入力値(デフォルト)</li> <li>スケーリング値</li> </ul>	☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT)
稼働経過時間閾値設定		メンテナンスアラーム機能の稼働経過時間の閾値を設定します。ただし、この値が0のときは、稼働時間経過アラームは発生しません。	0~4294967295 (デフォルト: 0)	☞ 105ページ 稼働経過時間閾値

### Point

CC-Link IEフィールドネットワークBasicはスレーブ局のコマンド実行に対応していないため、リモートバッファメモリに対してエンジニアリングツールからの読出し/書込みができません。

下記へのアクセスには、SP.SLMPSND命令を使用してください。(☞ 197ページ SLMP通信機能)

- ☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H, 0001H)
- ☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H, 3B81H)
- ☞ 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)
- ☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)
- ☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)
- ☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)
- ☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)

エラーのクリアには、下記いずれかをOFF→ON→OFFします。

- ☞ 38ページ エラークリア要求フラグ(RYA)
- ☞ 38ページ イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)

エラー履歴のクリアはできません。

# 任意のIPアドレスとサブネットマスクの設定

任意のIPアドレスとサブネットマスクを設定する手順について示します。

本設定は、IPアドレスとサブネットマスクを任意の値に変更したい場合に行います。特に変更が必要ない場合は、本設定は不要です。

## 設定手順

1. ネットワークインタフェースユニットのMACアドレスを控えておきます。  
MACアドレスについては、下記を参照してください。  
☞ 312ページ 定格銘板での確認
2. IPアドレス/局番設定スイッチを0にします。
3. マスタ局とネットワークインタフェースユニットを接続し、マスタ局とネットワークインタフェースユニットの電源をONします。
4. マスタ局のエンジニアリングツールで、“CC-Link IEF Basic構成”画面を表示します。  
☞ [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]⇒[ネットワーク構成設定]の<詳細設定>をダブルクリック
5. “CC-Link IEF Basic構成”画面で[接続機器の自動検出]ボタンをクリックし、接続機器の自動検出を実行します。

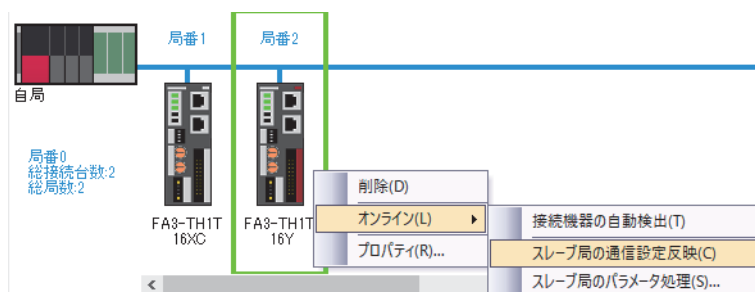


6. 手順1で控えておいたMACアドレスから対象のネットワークインタフェースユニットを選択し、任意のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。

台数	形名	局番	局種別	R/RV設定			Rw/Rw設定			グループNo.	予約局	IPアドレス	サブネットマスク	MACアドレス
				点数	先頭	最終	点数	先頭	最終					
0	自局	0	マスタ局									192.168.3.30	255.255.255.0	
1	FA3-THIT16XC	1	スレーブ局	64(1局占有)	0000	003F	32	0000	001F	1	設定なし	192.168.3.1	255.255.255.0	
2	FA3-THIT16Y	2	スレーブ局	64(1局占有)	0040	007F	32	0020	003F	1	設定なし	192.168.3.2	255.255.255.0	

7. 設定を反映するネットワークインタフェースユニットを右クリックし、“スレーブ局の通信設定反映”を選択します。

☞ [オンライン]⇒[スレーブ局の通信設定反映]



8. ネットワークインタフェースユニットが再起動し、設定したIPアドレスとサブネットマスクにて動作を開始します。
9. “CC-Link IEF Basic構成”画面で設定したIPアドレスとサブネットマスクをマスタ局のCPUユニットに書込み、CPUユニットをリセットまたは電源をOFF→ONします。

☞ [オンライン]⇒[シーケンサへの書込み]

- IPアドレスは、0.0.0.1~223.255.255.254の範囲で設定してください。
- サブネットマスクは、192.0.0.0~255.255.255.252の範囲で設定してください。
- IPアドレス/局番設定スイッチが0以外の場合、設定は反映されません。
- IPアドレスとサブネットマスク以外の設定は反映されません。
- IPアドレス/局番設定スイッチが0以外のネットワークインタフェースユニットに対して、"スレーブ局の通信設定反映"を実行した場合、エラーメッセージが表示されます。
- サブネットマスクを設定していない場合、IPアドレスの設定のみ反映されます。

# 8.4 プログラミング

ネットワークインタフェースユニットのプログラミング手順、読出し・書込みのプログラム例について説明します。  
なお、本章で紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は、対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証してください。  
本章では、GX Works3を使用する場合の例を説明しています。GX Works3以外のエンジニアリングツールを使用する場合は、使用するマスタユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

## プログラミング上の注意事項

サイクリック伝送のプログラムを作成する場合は、マスタ局とスレーブ局間でサイクリック伝送が正常に行われているタイミングで処理を実行するように、インタロックをとってください。

Point

各特殊リレー (SM)/特殊レジスタ(SD)の詳細については、下記のマニュアルを参照してください。  
📖CC-Link IEフィールドネットワークBasicリファレンスマニュアル

### ラベルを使用したインタロックプログラム

ラベルを使用したプログラムを示します。

#### ■ユニットラベル

下記のユニットラベルを使用します。

ユニットラベル			内容	デバイス
MELSEC iQ-R	MELSEC iQ-L	MELSEC iQ-F		
RCPU.stSM.bSts_CyclicTransmission	LHCPU.stSM.bSts_CyclicTransmission	FX5CPU.stSM.bSts_CyclicTransmission	サイクリック伝送状態	SM1536
RCPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[1]	LHCPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[1]	FX5CPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[1]	各局のサイクリック伝送状態(局番1)	SD1536.0
RCPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[2]	LHCPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[2]	FX5CPU.stSD.bnSts_CyclicTransmission_Station[2]	各局のサイクリック伝送状態(局番2)	SD1536.1

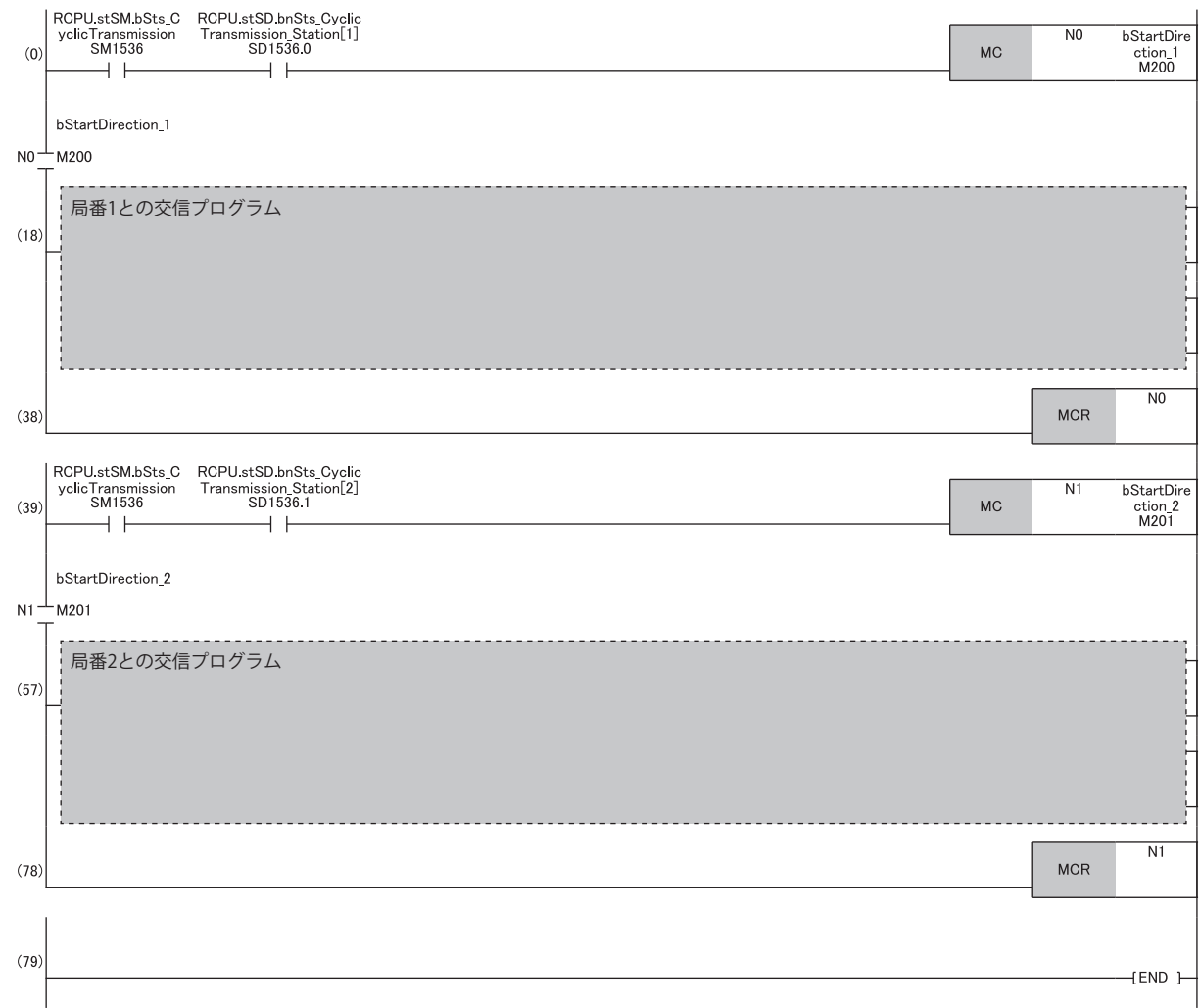
#### ■定義するラベル

下記のように、グローバルラベルを定義します。

ラベル名	データ型	クラス	割付け(デバイス/ラベル)	コメント
bStartDirection_1	ビット	VAR_GLOBAL	M200	交信条件の成立フラグ(局番1)
bStartDirection_2	ビット	VAR_GLOBAL	M201	交信条件の成立フラグ(局番2)

■プログラム例

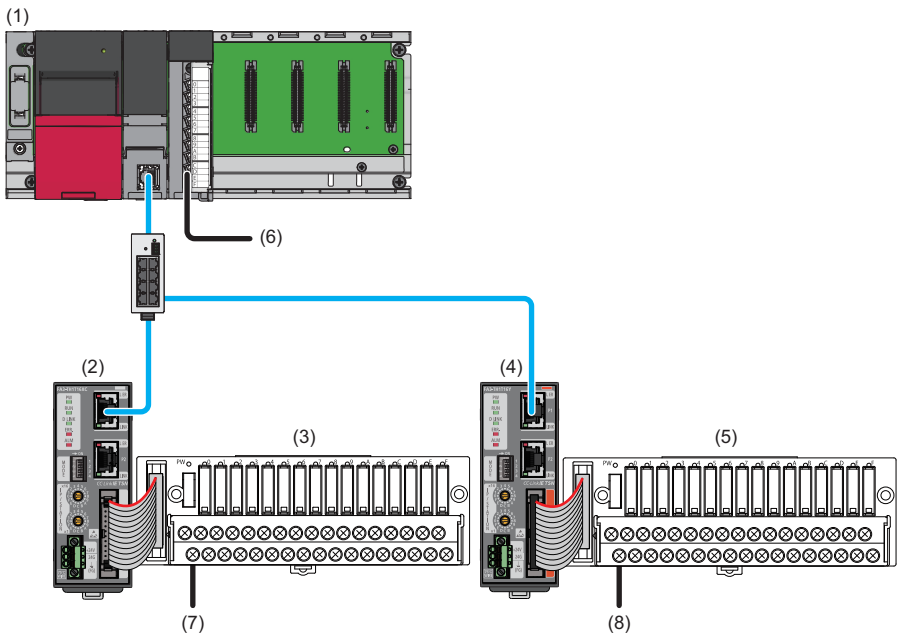
MELSEC iQ-Rでのプログラム例を示します。



# デジタル入出力の例

MELSEC iQ-RシリーズのCPUユニットを使用して、押しボタンスイッチをON/OFFしたときにランプを点灯/消灯するプログラム例を示します。

## システム構成

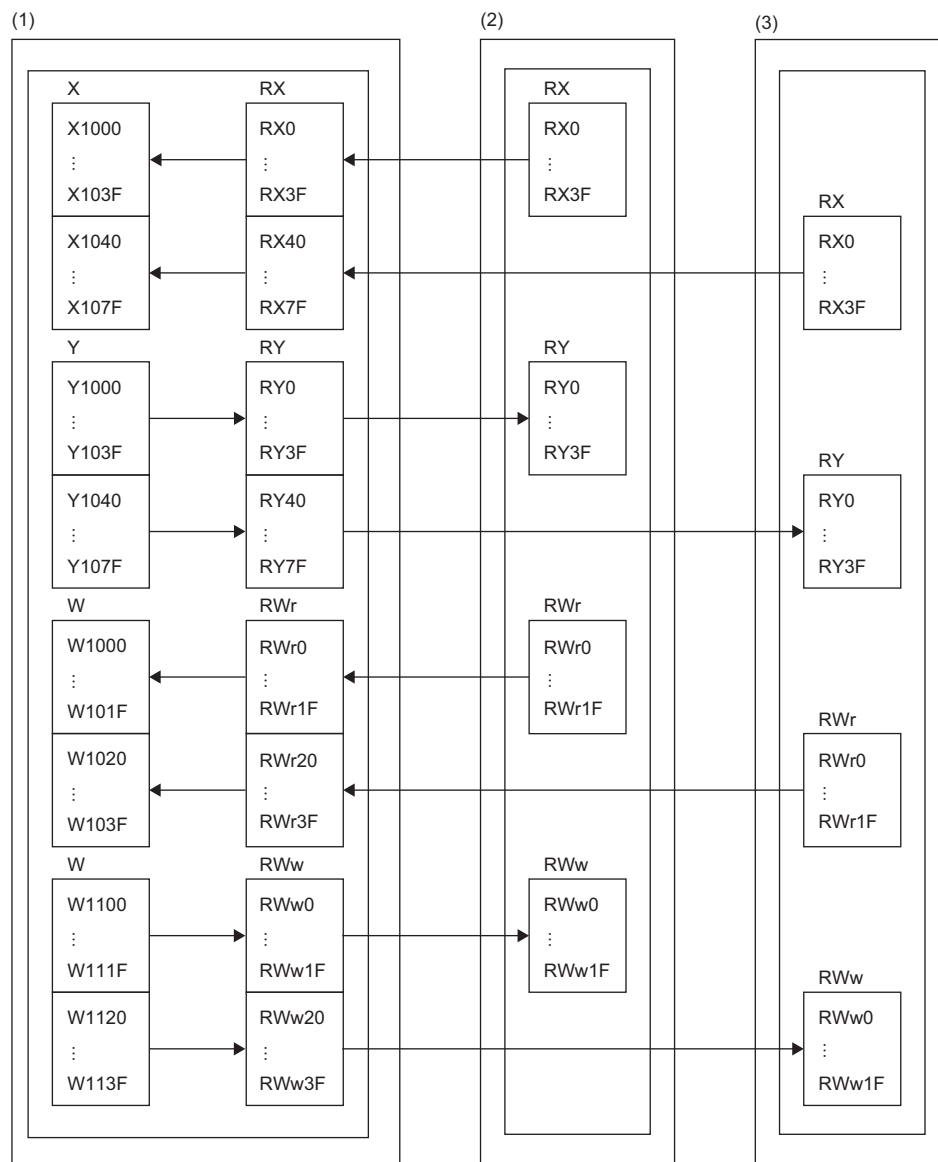


No.	内容		
(1)	マスタ局	R62P	電源ユニット
		R04CPU	CPUユニット
		RX40C7	入力ユニット(先頭入出力番号: 0020H~002FH)
(2)	スレーブ局	FA3-TH1T16XC	ネットワークインタフェースユニット(デジタル入力用)(IPアドレス/局番設定スイッチ: 1)
(3)	FA-TH16XRA20Sなどのデジタル信号変換器(入力タイプ)*1		
(4)	スレーブ局	FA3-TH1T16Y	ネットワークインタフェースユニット(デジタル出力用)(IPアドレス/局番設定スイッチ: 2)
(5)	FA-TH16YRA11などのデジタル信号変換器(出力タイプ)*1		
(6)	X20	エラークリアスイッチ	
(7)	X1000	押しボタンスイッチ	
(8)	Y1040	ランプ	

\*1 ネットワークインタフェースユニットに接続可能な機器は、下記を参照してください。

☞ 17ページ 接続可能機器

## デバイスの割付け



- (1) マスタ局: 対応CPUユニット  
 (2) スレーブ局(局番1): ネットワークインタフェースユニット(デジタル入力用)  
 (3) スレーブ局(局番2): ネットワークインタフェースユニット(デジタル出力用)



## プログラミング条件

スレーブ局(局番1)のRX0がONした場合、スレーブ局(局番2)のRY0がONします。

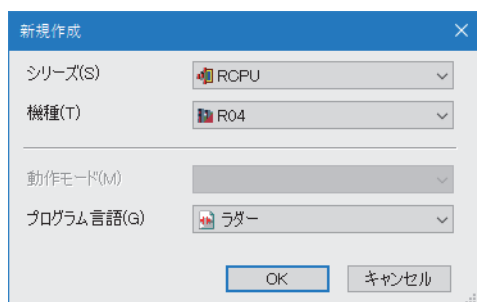
## 使用するデバイス

デバイス	内容	
X1000	スレーブ局(局番1)のRX0入力信号(押しボタンスイッチ)	FA3-TH1T16XC(RX0~RXF)
Y1040	スレーブ局(局番2)のRY0出力信号(ランプ)	FA3-TH1T16Y(RY0~RYF)
X20	エラークリアスイッチ	入力ユニット(X20~X2F)
D100	最新エラーコード(局番1)	
D101	最新アラームコード(局番1)	
D102	最新エラーコード(局番2)	
D103	最新アラームコード(局番2)	
M0	マスタコントロール用接点	
N0	ネスティング	
SM1536	サイクリック伝送状態	
SM400	常時ON	
SD1536.0	スレーブ局(局番1)のサイクリック伝送状態	
SD1536.1	スレーブ局(局番2)のサイクリック伝送状態	
W1000	最新エラーコード(局番1)(リンクリフレッシュで書き込まれるデバイス)	
W1001	最新アラームコード(局番1)(リンクリフレッシュで書き込まれるデバイス)	
W1020	最新エラーコード(局番2)(リンクリフレッシュで書き込まれるデバイス)	
W1021	最新アラームコード(局番2)(リンクリフレッシュで書き込まれるデバイス)	
W1100.A	エラークリア要求フラグ(局番1)	
W1120.A	エラークリア要求フラグ(局番2)	

## パラメータの設定

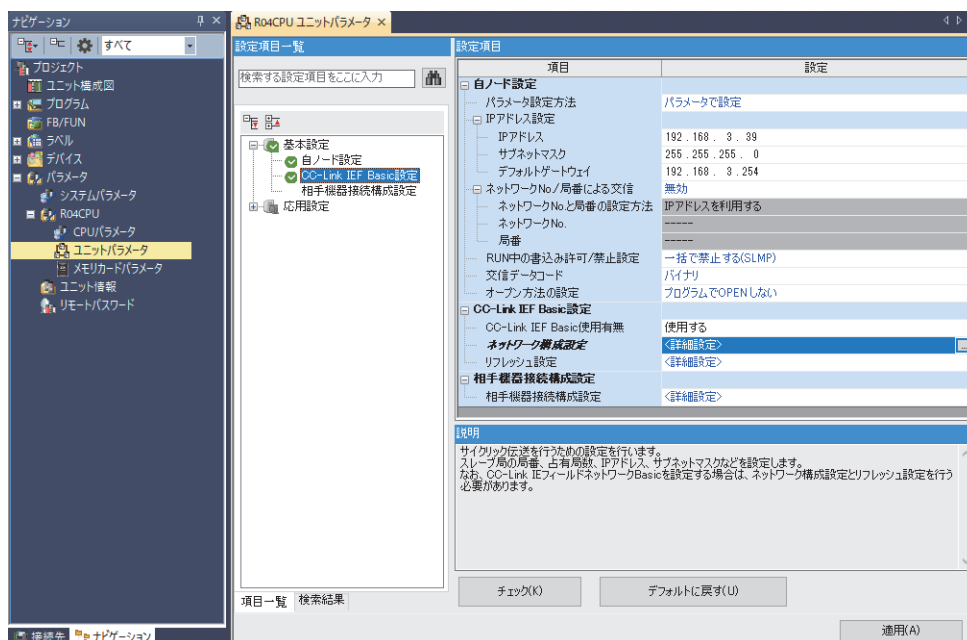
### 1. プロジェクトを作成します。

① [プロジェクト]⇒[新規作成]



### 2. CC-link IEフィールドネットワークBasicの使用有無を“使用する”に設定します。

② [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]



### 3. “CC-Link IEF Basic構成”画面を表示し、下記のように設定します。

🔍 [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]⇒[ネットワーク構成設定]の<詳細設定>をダブルクリック



### 4. [設定を反映して閉じる]を選択し、“CC-Link IEF Basic構成”画面を閉じます。

### 5. リフレッシュパラメータの設定画面を表示し、下記のように設定します。

🔍 [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒CPUユニットの形名⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[リフレッシュ設定]

リンク側					CPU側				
デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終
RX	128	00000	0007F	⇄	指定デバイス	X	128	01000	0107F
RY	128	00000	0007F	⇄	指定デバイス	Y	128	01000	0107F
RWr	64	00000	0003F	⇄	指定デバイス	W	64	01000	0103F
RWw	64	00000	0003F	⇄	指定デバイス	W	64	01100	0113F

### 6. [適用]ボタンをクリックします。

### 7. 設定したパラメータをマスタ局のCPUユニットに書き込み、マスタ局のCPUユニットをリセット、またはシーケンサの電源をOFF→ONします。

🔍 [オンライン]⇒[シーケンサへの書き込み]

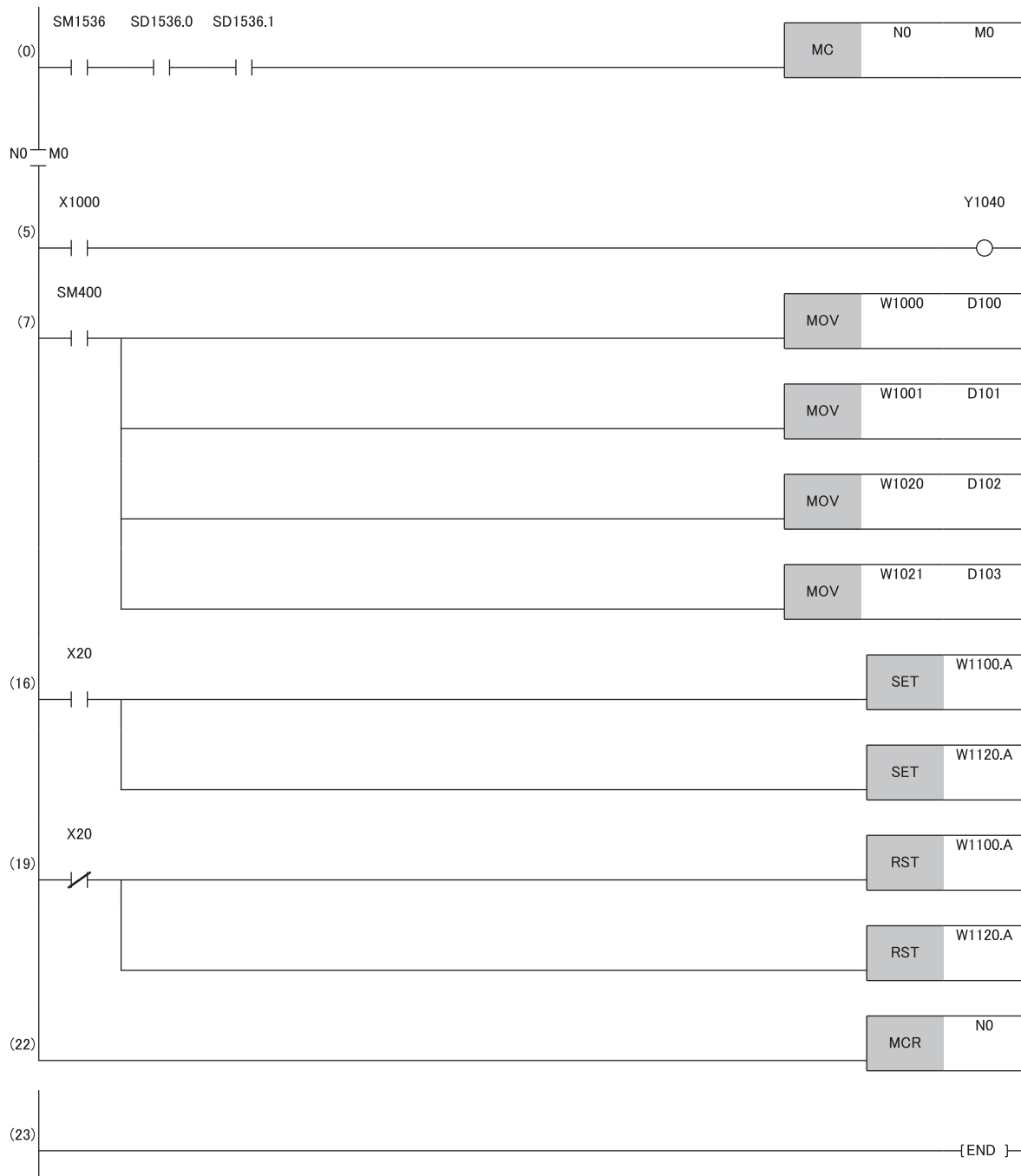
### 8. マスタ局のCPUユニットをRUNにし、ネットワークインタフェースユニットのD LINK LEDが点灯しているか確認します。



**Point**

プログラム例では、上記で示した以外のパラメータはデフォルトの設定を使用します。

## プログラム例



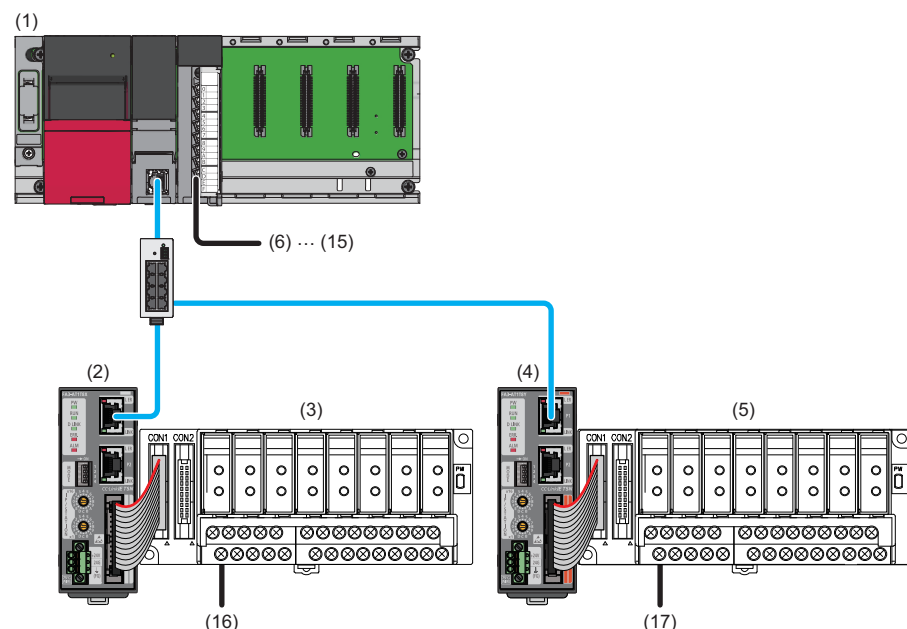
- (0) スレーブ局(局番1, 2)のデータリンク状態を確認します。  
 (5) スレーブ局(局番1)のRX0がONのとき、スレーブ局(局番2)のRY0をONします。  
 (7) 最新エラーコードおよび最新アラームコードを読み出します。  
 (16), (19) 最新エラーコードおよび最新アラームコードをクリアします。

## A/D変換の例

MELSEC iQ-RシリーズのCPUユニットを使用して、A/D変換を行うプログラム例を示します。(この例ではFA3-AT1T8Xのほか、FA3-AT1T8Yも使用しています)

パラメータ設定後、X28(イニシャルデータ設定要求)をONすることで、設定したパラメータでネットワークインタフェースユニットが動作を開始します。

### システム構成

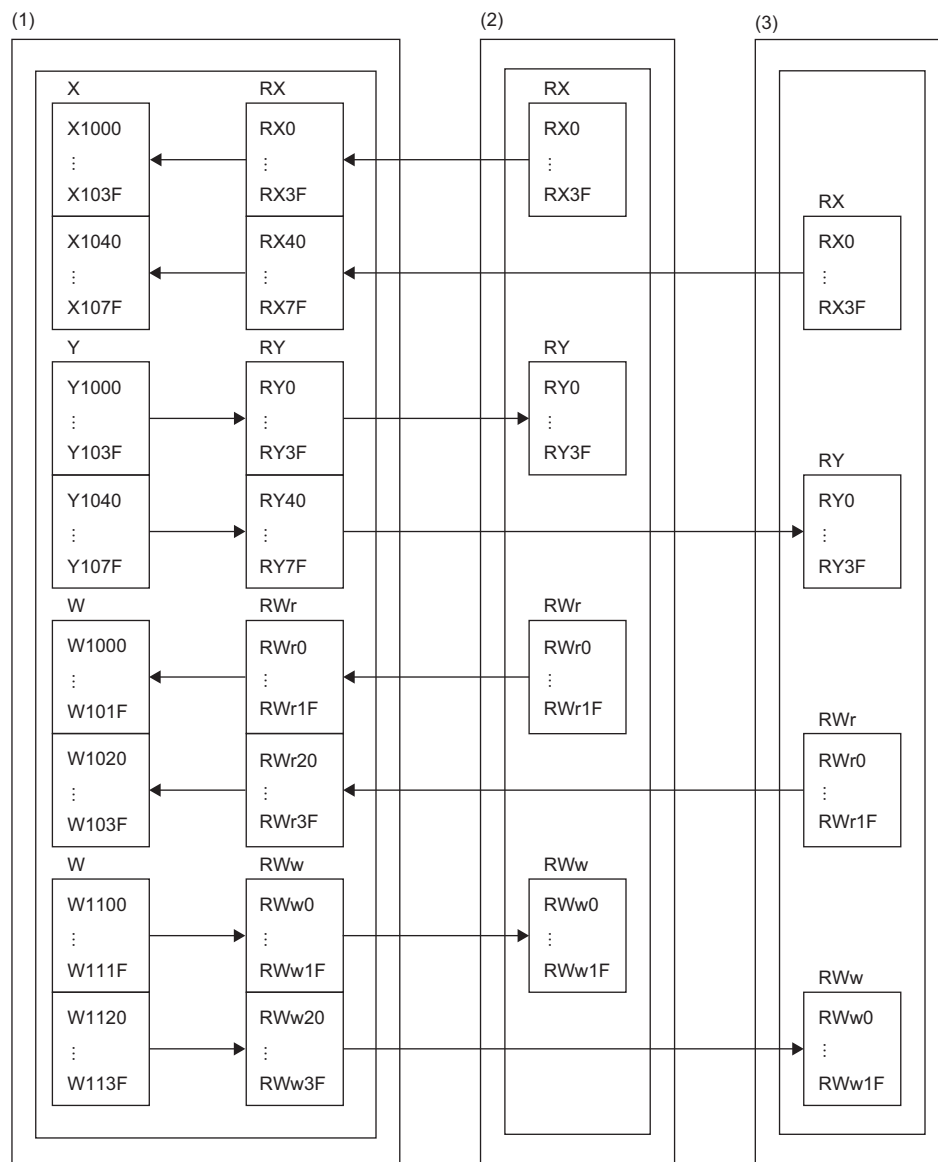


No.	内容		
(1)	マスタ局	R62P	電源ユニット
		R04CPU	CPUユニット
		RX40C7	入力ユニット(先頭入出力番号: 0020H~002FH)
(2)	スレーブ局	FA3-AT1T8X	ネットワークインタフェースユニット(アナログ入力用)(IPアドレス/局番設定スイッチ: 1)
(3)	FA-ATSV1XV05などのアナログ信号変換器(入力タイプ)*1		
(4)	スレーブ局	FA3-AT1T8Y	ネットワークインタフェースユニット(アナログ出力用)(IPアドレス/局番設定スイッチ: 2)
(5)	FA-ATSV1YV010などのアナログ信号変換器(出力タイプ)*1		
(6)	X20	リモート局(局番1)デジタル演算値読出し指令	
(7)	X21	リモート局(局番1)エラークリア指令	
(8)	X22	リモート局(局番1)最大値・最小値読出し指令	
(9)	X23	リモート局(局番1)最大値・最小値リセット指令	
(10)	X24	リモート局(局番2)デジタル値の書き込み指令	
(11)	X25	リモート局(局番2)アナログ出力一括許可指令	
(12)	X26	リモート局(局番2)警報出力クリア指令	
(13)	X27	リモート局(局番2)エラークリア指令	
(14)	X28	リモート局(局番1)イニシャルデータ設定要求	
(15)	X29	リモート局(局番2)イニシャルデータ設定要求	
(16)	AD	熱電対線	
(17)	DA	モータコントローラ	

\*1 ネットワークインタフェースユニットに接続可能な機器は、下記を参照してください。

☞ 17ページ 接続可能機器

## デバイスの割付け



- (1) マスタ局  
 (2) スレーブ局(局番1): ネットワークインタフェースユニット(アナログ入力用)  
 (3) スレーブ局(局番2): ネットワークインタフェースユニット(アナログ出力用)

## プログラミング条件

本項のプログラム例は下記の条件にて作成しています。

### ■初期設定内容

リモート局	設定項目	設定内容
FA3-AT1T8X(局番1)	CH0 A/D変換許可/禁止設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>CH1~4: 許可</li> <li>CH7~8: 許可</li> </ul>
	入力信号異常検出設定	CH1, CH3: 入力信号異常検出
	警報出力設定	CH2: 許可 <ul style="list-style-type: none"> <li>CH2 プロセスアラーム上限値: 15000</li> <li>CH2 プロセスアラーム下限値: 14000</li> <li>CH2 プロセスアラーム下上限値: 2000</li> <li>CH2 プロセスアラーム下下限値: -10</li> </ul>
FA3-AT1T8Y(局番2)	CH0 D/A変換許可/禁止設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>CH1~4: 許可</li> <li>CH7~8: 許可</li> </ul>
	警報出力設定	CH2: 許可 <ul style="list-style-type: none"> <li>CH2 警報出力上限値: 15000</li> <li>CH2 警報出力下限値: -10</li> </ul>

## 使用するデバイス

デバイス	内容	
X20	デジタル演算値読出し指令	RX40C7(X20~X2F)
X21	エラークリア指令	
X22	最大値・最小値読出し指令	
X23	最大値・最小値リセット指令	
X28	イニシャルデータ設定要求	
X1009	イニシャルデータ設定完了フラグ	FA3-AT1T8X(RX0~RX3F)
X100A	エラー状態フラグ	
X100B	リモートREADY	
X1010	CH1 A/D変換完了フラグ	
X1011	CH2 A/D変換完了フラグ	
X1012	CH3 A/D変換完了フラグ	
X1013	CH4 A/D変換完了フラグ	
X1016	CH7 A/D変換完了フラグ	
X1017	CH8 A/D変換完了フラグ	
X1018	警報出力信号	
X101C	入力信号異常検出信号	
X101D	最大値・最小値リセット完了フラグ	
Y1009	イニシャルデータ設定要求	FA3-AT1T8X(RY0~RY3F)
Y100A	エラークリア要求フラグ	
Y101D	最大値・最小値リセット要求	
W1000	最新エラーコード	FA3-AT1T8X(RWr0~RWr1F)
W1001	最新アラームコード	
W1002	CH1 デジタル演算値	
W1003	CH2 デジタル演算値	
W1004	CH3 デジタル演算値	
W1005	CH4 デジタル演算値	
W1008	CH7 デジタル演算値	
W1009	CH8 デジタル演算値	
W100A	入力信号異常検出フラグ	
W100B	警報出力フラグ	
D2002	CH1 デジタル演算値格納用デバイス	
D2003	CH2 デジタル演算値格納用デバイス	
D2004	CH3 デジタル演算値格納用デバイス	
D2005	CH4 デジタル演算値格納用デバイス	

デバイス	内容
D2008	CH7 デジタル演算値格納用デバイス
D2009	CH8 デジタル演算値格納用デバイス
D2030	最新エラーコード格納用デバイス
D2031	最新アラームコード格納用デバイス
D2032	入力信号異常検出フラグ格納用デバイス
D2033	警報出力フラグ格納用デバイス
D2050	SLMPSND命令コントロールデータ(実行・異常時完了タイプ)
D2051	SLMPSND命令コントロールデータ(完了ステータス)
D2052	SLMPSND命令コントロールデータ(自局使用チャンネル)
D2053	SLMPSND命令コントロールデータ(相手機器IPアドレス: 第3, 4オクテット)
D2054	SLMPSND命令コントロールデータ(相手機器IPアドレス: 第1, 2オクテット)
D2055	SLMPSND命令コントロールデータ(相手機器ポート番号: 45237)
D2056	SLMPSND命令コントロールデータ(要求先ネットワークNo.0000H固定)
D2057	SLMPSND命令コントロールデータ(要求先局番: 00FFH固定)
D2058	SLMPSND命令コントロールデータ(要求先ユニットI/O番号03FFH固定)
D2059	SLMPSND命令コントロールデータ(要求先マルチドロップ局番0000H固定)
D2060	SLMPSND命令コントロールデータ(再送回数(回))
D2061	SLMPSND命令コントロールデータ(到達監視時間(秒))
D2100	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ長)
D2101	SLMPSND命令要求フレーム(監視タイマ)
D2102	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: コマンド(Read: 0613))
D2103	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: サブコマンド)
D2104	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: 先頭アドレス1)
D2105	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: 先頭アドレス2)
D2106	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: ワード長)
D2107	SLMPSND命令要求フレーム(要求データ: ユニットNo.)
D2110	SLMPSND命令応答フレーム(応答データ長)
D2111	SLMPSND命令応答フレーム(終了コード)
D2112	CH1 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[0])
D2113	CH1 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[1])
D2114	CH2 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[2])
D2115	CH2 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[3])
D2116	CH3 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[4])
D2117	CH3 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[5])
D2118	CH4 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[6])
D2119	CH4 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[7])
D2120	CH5 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[8])
D2121	CH5 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[9])
D2122	CH6 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[10])
D2123	CH6 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[11])
D2124	CH7 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[12])
D2125	CH7 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[13])
D2126	CH8 最大値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[14])
D2127	CH8 最小値格納用デバイス(SLMPSND命令応答フレーム: 応答データ[15])
M0	交信条件の成立フラグ
M300	最大値・最小値読出しフラグ
M310	SLMPSND命令完了フラグ
M311	SLMPSND命令異常完了フラグ
F1	CH2 警報出力上限発生
F2	CH2 警報出力下限発生
F3	CH1 断線発生
F4	CH3 断線発生
F5	最大値・最小値読出し失敗

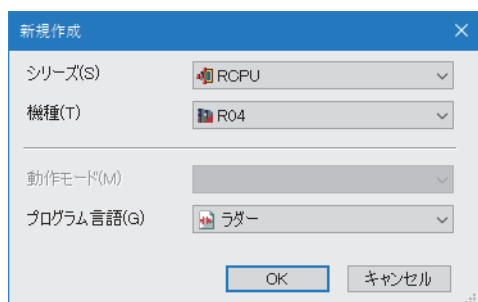


デバイス	内容
SM400	常時ON
SM1536	サイクリック伝送状態
SD1536.0	スレーブ局(局番1)のサイクリック伝送状態
N0	ネスティング
P0	SLMPSND命令データ設定用ポインタ

## パラメータの設定

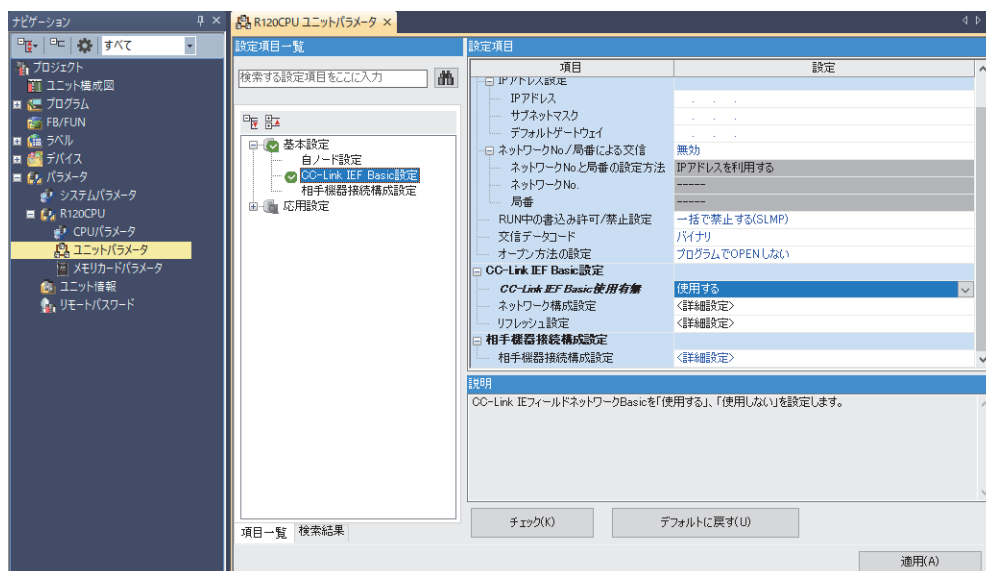
### 1. プロジェクトを作成します。

🔍 [プロジェクト]⇒[新規作成]



### 2. CC-link IEフィールドネットワークBasicの使用有無を「使用する」に設定します。

🔍 [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]



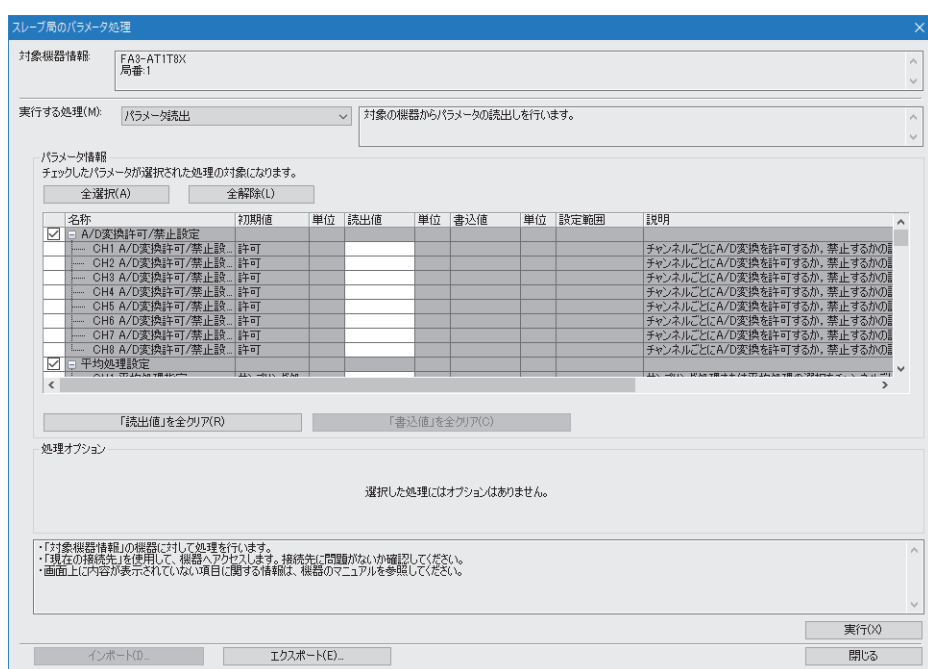
### 3. “CC-Link IEF Basic構成”画面を表示し、下記のように設定します。

🖱️ [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒[CPUユニットの形名]⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[CC-Link IEF Basic設定]⇒[ネットワーク構成設定]の<詳細設定>をダブルクリック



### 4. “スレーブ局のパラメータ処理”画面を表示します。

🖱️ ネットワークインタフェースユニットを右クリック⇒[オンライン]⇒[スレーブ局のパラメータ処理]



### 5. “実行する処理”を“パラメータ書込”に設定します。

### 6. “スレーブ局のパラメータ処理”画面で、初期設定内容にしたがってパラメータを設定します。(☞ 218ページ 初期設定内容)その他のパラメータについては、初期値を入力してください。

名称	初期値	単位	読出値	単位	書込値	単位	設定範囲	説明
<input checked="" type="checkbox"/> A/D変換許可/禁止設定								
CH1 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH2 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH3 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH4 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH5 A/D変換許可/禁止設定	許可				禁止			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH6 A/D変換許可/禁止設定	許可				禁止			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH7 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
CH8 A/D変換許可/禁止設定	許可				許可			チャンネルごとにA/D変換を許可するか、禁止するかの設定
<input checked="" type="checkbox"/> 平均処理設定								

7. [実行]ボタンをクリックし、ネットワークインタフェースユニットにパラメータを書込みます。
8. [閉じる]を選択し、“スレーブ局のパラメータ処理”画面を閉じます。
9. [設定を反映して閉じる]を選択し、“CC-Link IEF Basic構成”画面を閉じます。
10. リフレッシュパラメータの設定画面を表示し、下記のように設定します。

🔍 [ナビゲーションウィンドウ]⇒[パラメータ]⇒CPUユニットの形名⇒[ユニットパラメータ]⇒[基本設定]⇒[リフレッシュ設定]

リンク側					CPU側				
デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終
RX	128	00000	0007F	↔	指定デバイス	X	128	01000	0107F
RY	128	00000	0007F	↔	指定デバイス	Y	128	01000	0107F
RWr	64	00000	0003F	↔	指定デバイス	W	64	01000	0103F
RWw	64	00000	0003F	↔	指定デバイス	W	64	01100	0113F

11. [適用]ボタンをクリックします。
12. 設定したパラメータをマスタ局のCPUユニットに書き込み、マスタ局のCPUユニットをリセット、またはシーケンサの電源をOFF→ONします。

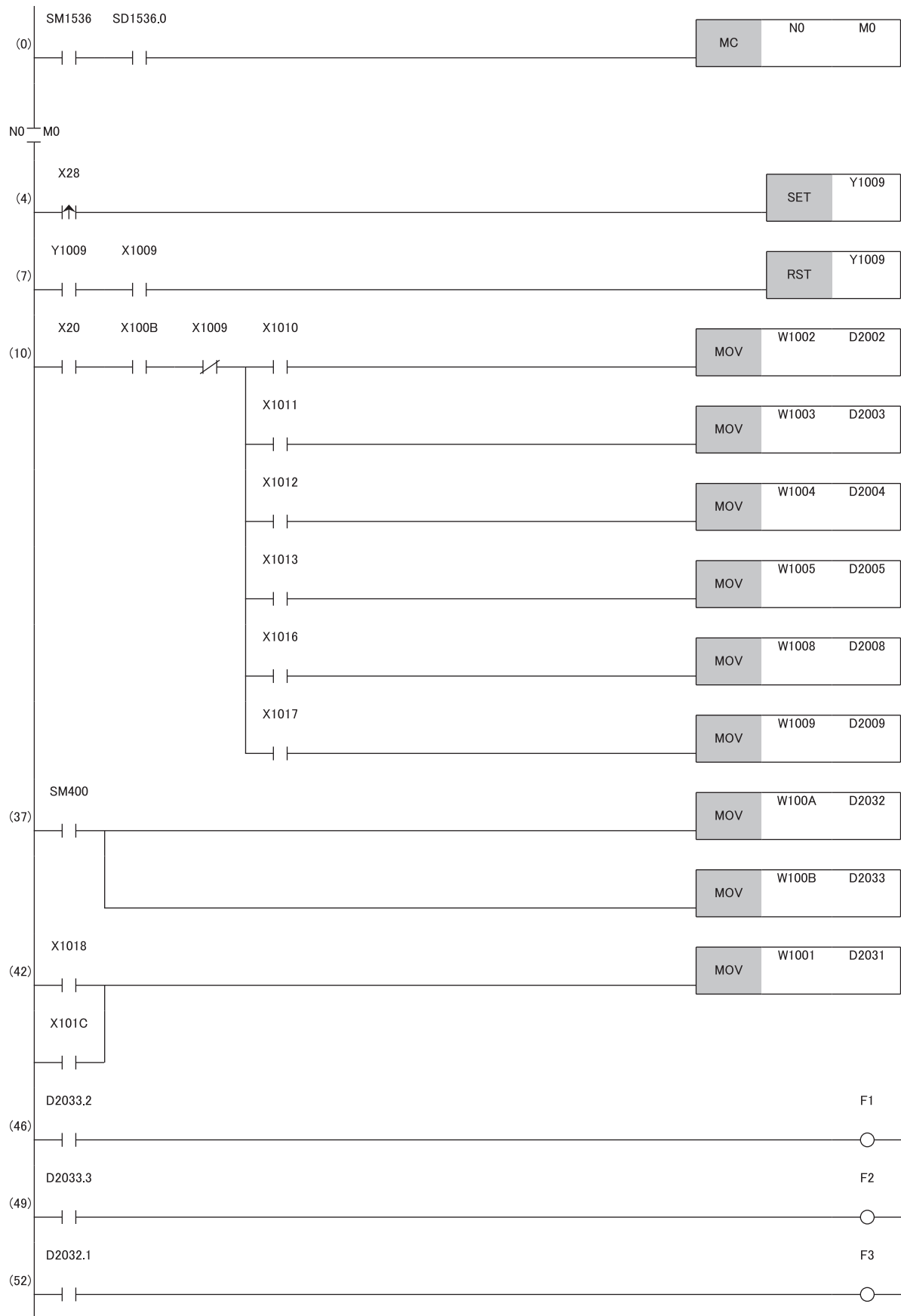
🔍 [オンライン]⇒[シーケンサへの書き込み]

13. マスタ局のCPUユニットをRUNにし、ネットワークインタフェースユニットのD LINK LEDが点灯しているか確認します。



プログラム例では、上記で示した以外のパラメータはデフォルトの設定を使用します。

## プログラム例





		MOV	H0B0B5	D2055
		MOV	H0	D2056
		MOV	H0FF	D2057
		MOV	H3FF	D2058
		MOV	H0	D2059
		MOV	K5	D2060
		MOV	K5	D2061
		MOV	H0C	D2100
		MOV	H14	D2101
		MOV	H613	D2102
		MOV	H0	D2103
		MOV	H600	D2104
		MOV	H0	D2105
		MOV	H10	D2106
		MOV	H0	D2107
(145)		RET		
(146)				[END]

- (0) スレーブ局(局番1)のサイクリック伝送状態の確認します。
- (4), (7) イニシャルデータ設定要求を実行します。
- (10) デジタル演算値を読み出します。
- (37) 入力信号異常フラグ, 警報出力フラグを検出します。
- (42) 最新アラームコードを読み出します。
- (46), (49) 警報発生時の処理を行います。
- (52), (55) 入力信号異常発生時の処理を行います。
- (58), (62), (74) 最大値, および最小値を読み出します。
- (83), (86) 最大値, および最小値をリセットします。
- (89) 最新エラーコードを読み出します。
- (92), (95) 最新エラーコードおよび最新アラームコードをクリアします。
- (105) SLMPSPND命令実行用のデータの設定処理を行います。



## D/A変換の例

FA3-AT1T8XとFA3-AT1T8Yを使用して、D/A変換を行うプログラム例を示します。

MELSEC iQ-RシリーズのCPUユニットを使用して、D/A変換を行うプログラム例を示します。(この例ではFA3-AT1T8Yのほか、FA3-AT1T8Xも使用しています)

パラメータ設定後、X29(イニシャルデータ設定要求)をONすることで、設定したパラメータでネットワークインタフェースユニットが動作を開始します。

### システム構成

システム構成については、下記を参照してください。

☞ 216ページ システム構成

### デバイスの割付け

デバイスの割付けについては、下記を参照してください。

☞ 217ページ デバイスの割付け

### プログラミング条件

プログラミング条件については、下記を参照してください。

☞ 218ページ プログラミング条件

## 使用するデバイス

デバイス	内容	
X24	デジタル値の書き込み指令	RX40C7(X20~X2F)
X25	アナログ出力一括許可指令	
X26	警報出力クリア指令	
X27	エラークリア指令	
X29	イニシャルデータ設定要求	
X1049	イニシャルデータ設定完了フラグ	FA3-AT1T8Y(RX0~RX3F)
X104A	エラー状態フラグ	
X104B	リモートREADY	
X105E	警報出力信号	
Y1049	イニシャルデータ設定要求	A3-AT1T8Y(RY0~RY3F)
Y104A	エラークリア要求フラグ	
Y1050	CH1出力許可/禁止フラグ	
Y1051	CH2出力許可/禁止フラグ	
Y1052	CH3出力許可/禁止フラグ	
Y1053	CH4出力許可/禁止フラグ	
Y1056	CH7出力許可/禁止フラグ	
Y1057	CH8出力許可/禁止フラグ	
W1122	CH1 デジタル値	FA3-AT1T8Y(RWw0~RWw1F)
W1123	CH2 デジタル値	
W1124	CH3 デジタル値	
W1125	CH4 デジタル値	
W1128	CH7 デジタル値	
W1129	CH8 デジタル値	
W1020	最新エラーコード	FA3-AT1T8Y(RWr0~RWr1F)
W1021	最新アラームコード	
W1022	CH1 設定値チェックコード	
W1023	CH2 設定値チェックコード	
W1024	CH3 設定値チェックコード	
W1025	CH4 設定値チェックコード	
W1028	CH7 設定値チェックコード	
W1029	CH8 設定値チェックコード	
W102A	警報出力フラグ	
D3002	CH1 デジタル値格納用デバイス	
D3003	CH2 デジタル値格納用デバイス	
D3004	CH3 デジタル値格納用デバイス	
D3005	CH4 デジタル値格納用デバイス	
D3008	CH7 デジタル値格納用デバイス	
D3009	CH8 デジタル値格納用デバイス	
D3100	最新エラーコード格納用デバイス	
D3110	警報出力フラグ格納用デバイス	
D3120	最新アラームコード格納用デバイス	
D3130	CH1 設定値チェックコード格納用デバイス	
D3131	CH2 設定値チェックコード格納用デバイス	
D3132	CH3 設定値チェックコード格納用デバイス	
D3133	CH4 設定値チェックコード格納用デバイス	
D3136	CH7 設定値チェックコード格納用デバイス	
D3137	CH8 設定値チェックコード格納用デバイス	
F10	CH2 上限値警報発生	
F11	CH2 下限値警報発生	
SM400	常時ON	
SM1536	サイクリック伝送状態	

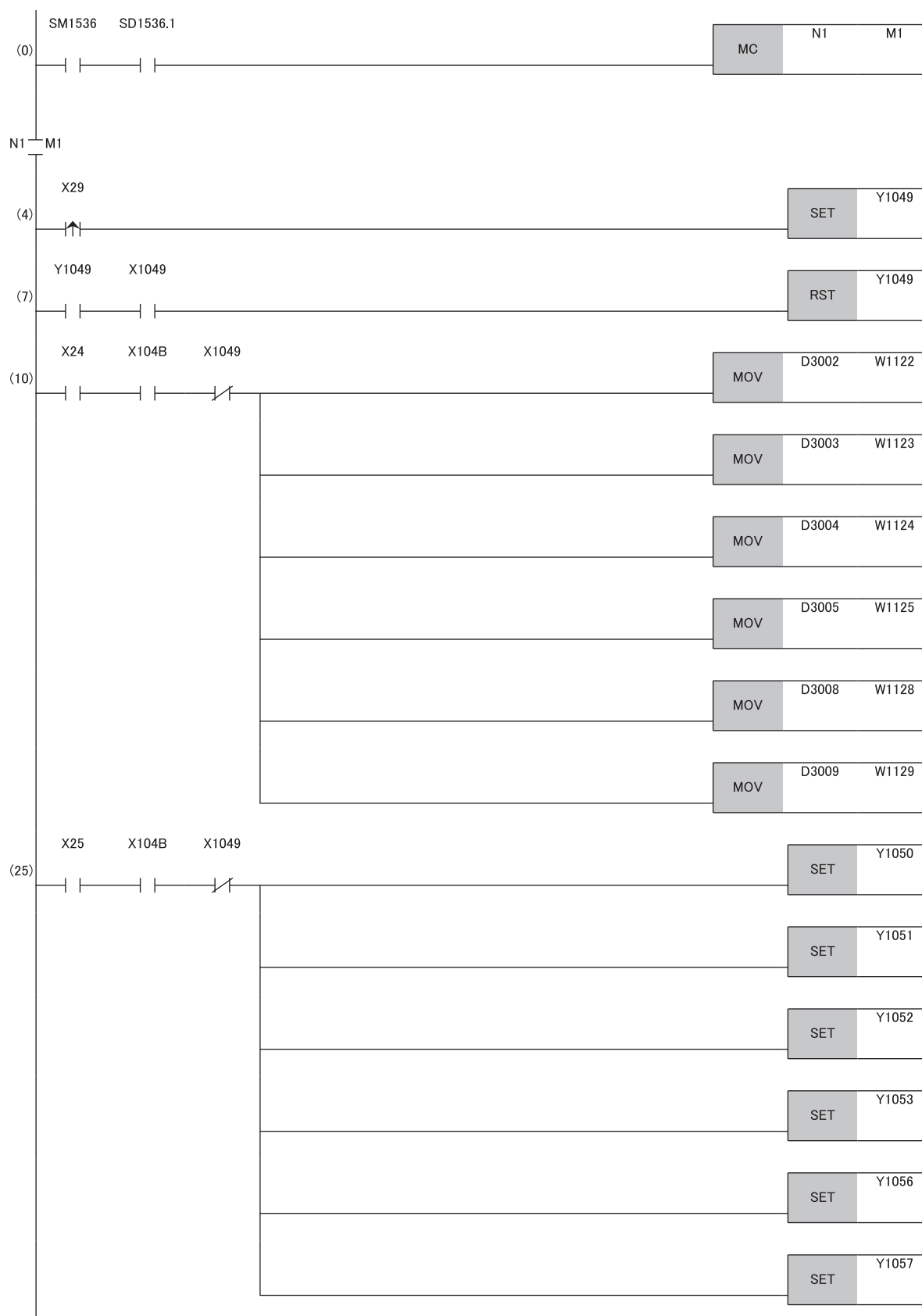
デバイス	内容
SD1536.1	スレーブ局(局番2)のサイクリック伝送状態
M1	交信条件の成立フラグ
N1	ネスティング

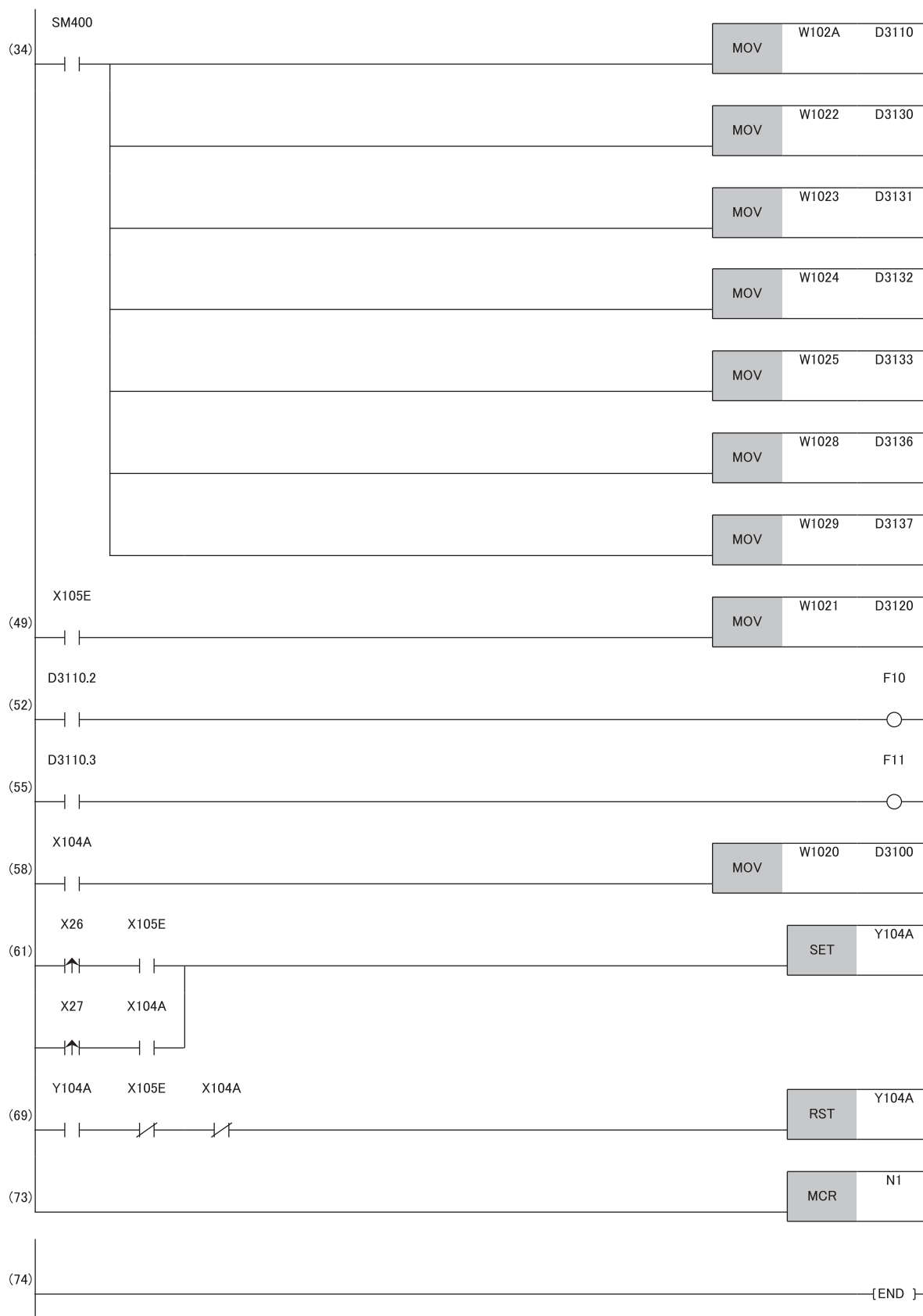
## パラメータの設定

パラメータの設定については、下記を参照してください。

📖 221ページ パラメータの設定

## プログラム例





- (0) スレーブ局(局番2)のサイクリック伝送状態を確認します。  
 (4), (7) イニシャルデータ設定要求を実行します。  
 (10) デジタル値の書込み処理を行います。  
 (25) D/A変換値の出力を許可します。  
 (34) 警報出力フラグ、および設定値チェックコードを検出します。  
 (49) 最新アラームコードを読み出します。  
 (52), (55) CH2 警報発生時の処理を行います。  
 (58) 最新エラーコードを読み出します。  
 (61), (69) 最新エラーコードおよび最新アラームコードをクリアします。